



私の宝物たち

30年近く住み慣れた九州を離れ、亡き夫とともに8年前に故郷の徳島へ移住することになった。そのきっかけとなった言葉は、「お母さん、今までお父さんの家族を大事にしてきたでしょう。これからは、自分の両親を大切にしたい。あなたもそう？」という子どもたちの声だった。夫と結婚して、ほとんど里帰りもできなかった私だが、何気ない一言で、第二の人生をスタートさせることとなった。九州では、自分の将来を見据え進学校をめざすスパルタ塾をしていた。こちらで最初に見た子どもの姿は麦わら帽子に長靴をはいていた。引越してきたのが3月だったので、きつと田植えの手伝いをして



那賀川町
小川 美紀さん

う。田舎はのんびりとしているから、そこに合う塾経営をすればいいとただいま進行形である。その合間に始めた野菜作りだが、だんだんとエスカレートして、どちらが本職だかわからなくなっている。誰でも、新しいことに挑戦するのは勇気のいることかもしれないが、新鮮かつ面白い。何をしても楽しいし、生きる喜びを感じる。本当にこれが私の人生なのか。幸せいっぱい毎日だ。

今、私は夫が残してくれた宝物（3人の子ども）と嫁と孫に囲まれて生活している。父親のいない寂しさも見せずに、私を支えてくれる宝物たちに一言言いたい。「ありがとう」と。

次は、住吉町の吉岡千秋さんをお願いします。

市民文芸

短歌

阿南市春季短歌大会作品

入選

代掻きのトラクターの音轟き渡り今年も田圃の祭りが始まる

森 マスミ

入選

木蓮は春の花嫁真白なるドレスに立ちて微笑み返す

紅露 勝子

入選

風強き川面は速き花いかだ空へ旅ゆくごとく競いて

青木 弘子

入選

黄葉の銀杏大樹の陰に待つ落葉踏み分け出棺の刻を

矢野 道子

入選

「走れメロス」のさまに吹く風春の風桜はなびら真横に散らす

徳川 明美

入選

芍薬のいでしばかりの幼な芽を春一番がなぶり過ぎゆく

常盤 久子

入選

朝日受け峽の溜池カモ数羽水輪広げてすい泳ぐ

米田 啓子

俳句

阿南市俳句連合会選

生き方を問ひ故郷へ墓参り

峰 敏勝

梅雨灯し油の匂ふ自転車屋

石澤 三朗

鍵穴へつづいてをりし蟻の道

河野 柳史

朝の庭大玉西瓜に笑みこぼれ

近藤とき子

とうさんは泳げたらうか瓜を揉む

神野 喜美

園児らの曇りなき顔梅雨の天

谷中 紫扇

あかあかと入日に染まる雲の峰

柳川 翠子

梅雨晴間狭庭の花に声を掛け

佐野八重子

成せば成る鷹山家訓夏椿

神野千鶴子

草取るや小さき花に手をとめる

吉崎 晶子

川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

主流からはずれ戻れぬ元の席

二階千代美

冥土への梯子しばらく外しとく

武田 敏子

マネキンにはよく似合ってた悔いの服

林 満子

幸運は無色透明すぐ消える

萩野ひとみ

横文字の長いカルテが気に掛かる

原 公美子